

# 第一工科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和5年度 自己点検・評価結果(1/2)

評価日時：2024年3月12日

会議名称：第12回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の令和5年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	A	令和4年度より全学科に対しリテラシーレベル相当の科目を展開し、教務委員会において単位の履修状況および単位取得状況を確認しており、今年度は2年目となる。本プログラムに関わる科目はまだ必修科目となっておらず通常の選択科目のままであるが、履修者数は初年度と比べ2.5倍にも増えた。
学修成果	B	履修者の増加が想定を大きく超え、学生一人あたりの指導体制は低下したが、出席率・単位取得率共に向上した。より履修者数が増えても学生一人あたりの学修成果が下がらないよう、来年度は教育体制の強化を実施する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	学生アンケートの評価は昨年度より明らかな有意差で向上しているが、まだ向上の余地はあると思われる。次年度以降より向上するようアンケート結果等を分析・改善していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	今年度の履修者数は前年度比2.5倍にも増えており、想定以上に後輩等他の学生へ広く推奨されたものと思われる。学生アンケートをもとに教員が授業改善計画書を作成している。履修学生の意見を活用してより現在の学生に合うよう調整を行い、次年度学生へのプログラム履修の推奨度を高めるとともに学習意欲の向上へと繋げる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	将来的には必修化し履修率100%を目指しているが、まだカリキュラム変更に至っておらず選択科目の状態であるが、昨年度と比べ履修者数が2.5倍と想定を超えた早いペースで増加している。この調子で履修率を上げるため、周知活動を進めつつ、必修化に向けてカリキュラム調整を進めている。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

# 第一工科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和5年度 自己点検・評価結果(2/2)

評価日時：2024年3月12日

会議名称：第12回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の令和5年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	-	現段階でまだ本プログラム修了者は卒業していないため、本項目は評価できない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	学外からも教育プログラム内容・手法等への意見が伺えるよう調整を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	データサイエンス・AIは日進月歩の分野のため、単位を取れた後も自らアンテナを張って最新情報を収集・理解し続けることが重要である。課題では自ら調べ考える課題を多くすることにより、今後も自ら学び続けられるよう調べ方を身に付けさせ、自ら学ぶ楽しさを体験させるとともに自主的な学びの姿勢をはぐくませている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	提出課題や試験の出来や学生アンケートもをもとに、適宜学習内容や配布資料、課題を見直し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業としていく。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。